

森構想エリアで環境学習を推進していくための課題について

(4) 森構想エリアで環境学習を推進していくための課題（仮）

基礎調査、アンケート、ヒアリングから把握した尼崎 21 世紀の森構想エリア内の環境学習の現状や特徴、ニーズを基に、尼崎 21 世紀の森構想エリアにおいて、環境学習を推進する上での課題について整理した。

① サポート体制やしくみの充実

アンケート結果から、企業・市民団体ともに時間的制約や環境学習を担える人材の不足が課題となっていることが分かった。また、企業では、専門的な知識を有する学校や大学等との連携を望む意見があった。

加えて、行政ヒアリングの結果からは、乳幼児向けの環境学習の実施にあたっては幼児教育および環境学習の双方の専門家のサポートが必要であることがわかった。

以上のことから、環境学習を推進していくためには、企業や市民団体などによる環境学習の実施を専門家や経験者がサポートする体制やしきづくりが必要と考えられる。

② 繋がる場の創出

アンケート結果から、他の企業や市民団体主催のイベントへの出展をきっかけに環境学習に取り組むようになった企業の事例が多く見られた。また、企業と市民団体ともに、環境学習の実施に向けた意欲はあるがノウハウが無いことから、既に環境学習に取り組んでいる他の企業や市民団体との情報交換の機会を望んでいることがわかった。

以上のことから、環境学習に取り組む企業や団体、専門的知識を持つ大学や研究機関、環境学習の実施へ意欲のある企業や学校園などが繋がり、情報交換や連携による取組へ発展するきっかけとなる場を創出することが求められる。

③ 情報の発信・共有

現状把握やアンケート結果から、尼崎臨海地域における環境学習の実施状況の特徴として、森・運河・工場など様々なフィールドを活用した多様な分野をテーマとして実施されていることや、行政・市民団体・企業といった多様な主体が多様な分野で実施されていることなどが確認できた。このような実施状況と合わせて、市民団体では効果的な宣伝をしていきたいという意見が多いことから、既に実施されている環境学習の取組に関する情報発信が求められていることがわかった。

加えて、行政ヒアリングの結果から、既存の環境学習に関する取組をまとめて情報発信していく必要があることがわかった。

以上のことから、尼崎臨海地域において、企業や市民団体など多様な主体により実施されている多様な分野の取組に関する情報を取りまとめ、発信・共有することが求められる。